



令和 8 年（2026 年）10 月 13 日（火）

広島市安佐動物公園 管理課長：田村

担当：企画広報係 竹内、田邊 ☎082-838-1111

【論文発表】オオサンショウウオの「ヌシ」は、いつ、どこから？ 22 年間にわたる生態調査の解析結果を報告

安佐動物公園では、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの保全に向け、広島県内での生態調査を継続してきました。このたび、2003年から2024年までの調査記録を解析し、繁殖巣穴を占有する雄「ヌシ」の交代や移動の傾向を明らかにしました。当園職員が本研究成果をまとめた論文が、国際学術雑誌『Zoological Science』に掲載されることとなり、オンラインで先行公開されましたので、お知らせいたします。

1 論文の概要

・オオサンショウウオは「ヌシ」と呼ばれる 1 頭の雄が河川の巣穴を数か月間に渡って占有しますが、産卵等繁殖目的の場合に限りその巣穴に複数個体が一時的に集まることが知られています。安佐動物公園の 22 年間の追跡調査から、「ヌシ」が同一の繁殖巣穴を複数年に渡って利用し、最長 6 年程度で次の「ヌシ」に交代する傾向が明らかになりました。



志路原川のオオサンショウウオ

- ・「ヌシ」になる個体の経歴は一樣ではなく、調査区画の約 1km 圏内で成長した個体が「ヌシ」になる場合と、別の支流から移動してくる場合の両方がある可能性が示されました。
- ・多くの個体は比較的狭い範囲に定住する傾向がありました。一方で、雄個体は雌よりも広い範囲を利用する傾向にあり、移動距離は雌雄差や個体差が大きいこともわかりました。
- ・オオサンショウウオの地域集団を保全するためには、繁殖巣穴とその周辺環境を維持するとともに、堰堤などの移動障害を軽減し、河川間の連続性を保つことが重要であることを示しました。

2 掲載論文の詳細

【タイトル】 Insights Into Den Occupancy and Den-Master Turnover of the Japanese Giant Salamander (*Andrias japonicus*) From a 22-Year Monitoring Program in the Shijihara River, Hiroshima

【著 者】 Wataru Anzai, Noriyuki Nonoue, Koshiro Hara, Mizuki Kittaka, Hiroshi Kamada, Nobuyoshi Minamigata, Katsuhiko Abe.

【掲載雑誌】 Zoological Science

【掲載 URL】 論文 URL: <https://doi.org/10.2108/zs250112> (オンライン先行公開日: 9 月 22 日)

開園時間 午前 9 時から午後 4 時 30 分まで（ただし、入園は午後 4 時まで）

入 園 料 大人 510 円、65 歳以上・小人（高校生及び高校生相当年齢）170 円 ※中学生以下無料
※65 歳以上の適用には公的証明書が必要

休 園 日 毎週木曜日（祝日の場合は開園）

ASAZOO AUTUMN Fest. : 9 月 5 日（土）～11 月 28 日（土）の主に土日祝にイベント開催！